

大館市の 名園探訪

高橋家で広縁に座りながら(左 遠藤リポーター、中央 禎一さん、右 若奥さん)

大館市に住んでかれこれ20年余り、自宅と職場との往復に明け暮れているうちに、自分の住む街についてよく知らないままに来てしまったという思いがあります。

今回、市民リポーターとして市の委嘱を受け、この機会に大館市の「名園」と呼ばれるお庭をリポートさせていただきます。

リポーター

遠藤 阿希みさん(東台3区)

文化の香りを伝える名園

日本は山紫水明の美しい自然に恵まれた国です。私たちの先人は城造り、寺造り、家造りの過程で、それらの自然を背景とし、またイメージの中に切り取って、美しく造形された庭園を各地に残しました。それらは地域の文化財として大切に保存され、地域観光の目玉として活躍しているものがたくさんあります。

しかし、書画・骨董とは違い、お庭は生きていて維持・管理に大変な手間とお金がかかります。それだけに、美しく整えられ世話をされているお庭には、人々の思いが込められています。それを見るにつけ、庭園は地域文化の一つの証とも言える存在ではないかと考

えることがあります。

大館市にはどんなお庭があるのか、またそのお庭はどのような歴史や作り手の思いを背負っているのか訪ねてみたいと思いました。

大館市内の名園

大館市の「ふるさと探訪並木名園名木保存事業」で指定した名園は4ヶ所。花岡町の「鳥潟会館」、豊町の「宗福寺庭園」、二井田の「温泉寺庭園」、谷地町の「高橋家庭園」です。

このうち、温泉寺は現在お寺の改修工事中にいたり、庭内を散策ということはできませんでしたが写真撮影させていただきました。現在、一般に公開されているのは鳥潟会館のみで、「宗福寺庭園」と「温泉寺庭園」は檀家のか